

明治十一年(一八七八)、英国の女性旅行家イザベラ・バードがこの下野街道を通り東北地方を旅しています。その旅行記「日本奥地紀行」には、長野の渡しについて、「平底舟で川を渡った。川の両側にはまた木がすっかり打ち込んであり、藤蔓を何本も結びあわせた大綱を支えている。一人は綱をたぐり、一人は船尾で棹をさす」とあります。明治に入っても渡しが行われていたことが伺えます。

この渡しも明治十七年(一八八四)の会津三方道路開設とともにその役目を終え、現在では「舟場前」という字名が残るのみです。